「生体肝移植ドナー手術に関する多施設共同後方視的研究」に対するご協力のお願い

研究責任者　阿部 雄太
研究機関名　慶應義塾大学医学部
（所属）　外科学教室(一般･消化器)

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「８ お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

１　対象となる方

研究実施許可日より 2027 年 3 月 31 日までの間に、慶應義塾大学病院および研究参加施設に入院もしくは通院した生体肝移植ドナーもしくはレシピエントの方

２　研究課題名

承認番号　20241113
研究課題名　生体肝移植ドナー手術に関する多施設共同後方視的研究

３　研究組織

本研究は、多施設共同研究です。

研究代表機関	研究責任者
慶應義塾大学医学部外科学	専任講師　阿部雄太

共同研究機関	研究責任者
国立成育医療研究センター	病院長　笠原 群生
さいたま赤十字病院	消化器外科　部長　新村 兼康
埼玉県立小児医療センター	移植センター長　水田 耕一

４　本研究の目的、方法

生体肝移植ドナー手術は、ドナーの安全性および採取したグラフト肝の質が重要です。ドナー肝

切除は、その両方を担保するために、定型化された手術手技や手順を構築することが必要です。近年では腹腔鏡やロボット手術などによる低侵襲ドナー肝切除が普及してきており、本邦では 2022 年 4 月に腹腔鏡下外側区域グラフトが保険収載され、今後更に適応が拡大されることが予想されます。本研究の目的は、定型化された生体肝移植ドナー手術による手術成績を検討することで、手術手技や手順の妥当性について検証することです。

より多くのデータを蓄積するため、同様の手術手技や手順を採用している施設に協力して頂き、より正確な情報を発信していきたいと考えています。

５　協力をお願いする内容

対象となる患者さんの診療録・画像データを閲覧し、データを集積した後に解析を行います。患者さんの診療録のみを使用させて頂くため、新たなご負担をおかけすることはありません。

６　本研究の実施期間

研究実施許可日～2029 年 3 月 31 日

７　外部への試料・情報の提供

該当致しません。

８　お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、研究参加の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

本試験の実務担当医師：長谷川　康　(慶應義塾大学医学部外科学(一般・消化器)肝胆膵・移植班)
連絡先：住所　〒160-8582　東京都新宿区信濃町 35
電話番号　03-5363-3802　内線 62334　（平日 9:00～17:00）
メールアドレス　hasegawayas@keio.jp

以上